

# 「地域住民の Advance Care Planning の準備性と障壁に関する意識調査」

## へのご協力をお願い

### ■ 研究の対象

安房地域において、2014年4月3日～2015年1月29日に行われたアドバンス・ケア・プランニング in 安房によるワークショップ(タイトル:おわりはじまり)に参加された方

### ■ 研究の目的・方法

超高齢化社会を迎えつつある日本において、アドバンス・ケア・プランニング(以下 ACP=事前指示計画)が注目を浴びている。ACP は「成人において、その年齢や健康段階を問わず、これからの医療に関する本人の価値観、人生の目標、意向を理解し、共有することを支えるプロセスとされる。

ACP はアドバンスディレクティブ(AD=事前指示)や Do Not Attempt Resuscitation(DNAR)指示に関する話し合いを含む包括的概念であり、その目的は、重篤な疾患に罹患した患者が、自らの価値観や目標、意向に沿った医療を受けられる手助けをすることにある。しかし我が国では「縁起でもない」という言葉に象徴されるように、患者や家族、医療者にとって、死を想起させるような話題は避けられる傾向にある。医療機関で働く医療スタッフや地域に住む住民の、ACP に対する準備性(readiness) や、どのような障壁を感じているかは明らかにされていない。本研究では、首都圏近郊で行われた ACP 啓発ワークショップ(以下 WS)の参加者それぞれの、ACP に対する準備性や、その障壁となる要素の分析を通じて、コミュニティにおける ACP 普及活動のあり方や課題を考察する。

「研究実施期間」(2020年5月14日～2024年12月31日)

研究のデザイン:後ろ向き観察研究

・研究の手順

- 1.安房地域において、2014年4月3日～2015年1月29日の間に計8回、ACP の啓発 WS を実施した
- 2.WS の実施前(参加意欲の向上などが目的)・実施後(振り返りと WS へのフィードバックが目的)に取得した参加者アンケートを集計
- 3 参加者の属性・背景の量的分析および自由記載欄に書かれた内容を質的に分析し考察する

### ■ 研究に用いる試料・情報の種類

アンケートに記載された

-年代、性別、職種

-設問①(W S 前後に実施):「あなたやあなたの家族(大切な人)が命に関わるような状況で医療を受ける場合、自分自身で決めること(自己決定)はどのくらい大切か？」

-設問②(W S 前後に実施):「あなたの家族(大切な人)が決めた決定をあなたは全て尊重することができますか？」

-設問③(W S 後に実施):「自分がどのような人生の最期を過ごしたいか、御家族や大切な人とお話をしたことはありますか？」

-設問④(設問③と連動して、自由記載で回答)

設問③で「ある」と答えた方→「どのタイミングでどのような話をしましたか？」

設問③で「ない」と答えた方→「話していない理由は何がありますか？」

設問③「話したいけど話をしていない」と答えた方→「話したいと思っているけど話せない理由は何ですか？」

■ お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記のご連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。

また、試料・情報が当該研究について、参加者御本人もしくは代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象者といたしませんので下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも参加者様に不利益が生じることは一切ありません。

亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科

職名:医師 氏名:蔵本 浩一

電話:04-7092-2211(代) FAX:04-7099-1281